

<実践報告>

新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた 附属学校と学部の連携による臨床経験科目「教育臨床演習」の成果

尾臺美彰 信州大学教育学部附属長野中学校

谷塚光典 信州大学学術研究院教育学系

森下 孟 信州大学学術研究院教育学系

Prospective Teachers' Field Placement During the COVID-19 Pandemic with Relationship between Demonstration Schools and Faculty of Education

ODAI Yoshiaki: Nagano Junior High School, Faculty of Education Shinshu University

YATSUKA Mitsunori: Institute of Education, Shinshu University

MORISHITA Takeshi: Institute of Education, Shinshu University

研究の目的	新型コロナウイルス感染症が拡大する中で十分な感染予防対策を講じながら、教育学部 2 年次生を対象とする臨床経験科目「教育臨床演習」を、附属学校と学部とが連携しながら実施することの成果と課題を明らかにすること。
キーワード	教師教育 教員養成 教育実習 臨床経験科目
実践の目的	コロナ禍であっても、3 年次に履修する教育実習に向けて、2 年次の臨床経験活動を実践する方法を明らかにすること。
実践者名	第一著者・第二著者・第三著者と同じ
対象者	信州大学教育学部 2 年次生のうち附属長野中学校所属の学生
実践期間	2021 年 4 月～1 月、2022 年 4 月～9 月
実践研究の方法と経過	本実践は、コロナ禍のために 2020 年度は実施できなかった臨床経験活動を、2021 年度は附属と学部とで連携しながら実施してきた。附属担当教員と学部担当教員が連絡を密に取り、必要な事前指導・事後指導を行った。
実践から得られた知見・提言	○コロナ禍であっても、附属学校と学部が密に連携することによって、臨床経験科目における臨床経験活動を実施可能だったこと。 ○先輩の教育実習の様子を直接参観することで、授業参観の方法や参観記録票の記入方法などを実践的に学ぶことができたこと。

1. はじめに

信州大学教育学部では、教育現場において理論との連携をもちつつ、臨床的に学びとる実践知である「臨床の知」を基本理念として掲げており、高度な専門知識と実践的な教育技術を身につけ豊かな教養と創造性に溢れた教育者を育成することを目指して、附属学校園を積極的に活用した臨床経験科目を実施してきている。教員養成初期段階である1年次から、附属学校園における臨床経験活動を取り入れている。

2020年度入学生から、臨床経験科目の内容と運営体制の改革が行われ、教育実習Ⅱおよび特別支援教育実習の実施時期を4年次から3年次に移行したり、臨床経験科目の実施体制を臨床教育推進室から臨床教育部会に組織変えしたりした。学部2年次生が履修する「教育臨床演習」についても、2021年度からは実習校を長野附属学校として実施することが予定されていた。

そのような中で、新型コロナウイルス感染症の拡大により、大学の教職課程および教職大学院における教育実習・学校実習の実施期間や実施方法が弾力化されてきた（例えば、文部科学省2020a, 2020bなど）。信州大学教育学部においても、2020年度は、附属学校園と連携した教育実習代替科目を開講してきた。学部1・2年次生の臨床経験活動についても、2020年度は実施できず、2021年度も当初の計画と大幅な変更を加えて実施することとなった。

そこで、本稿では、新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた臨床経験活動のうち、特に附属長野中学校において学部2年次生を対象に実施された「教育臨床演習」について、2021年度および2022年度の実施状況から成果と今後の課題を明らかにすることを目的とした。

2. 「教育臨床演習」の概要

教育学部2年次生必修科目である「教育臨床演習」（通年・2単位）は、2019年度入学生までは、長野市内の公立小学校の協力を得ながら、教員の勤務時間に合わせて一週間滞在して、授業アシスタントおよび担任補助業務等の職場体験を行っていた（伏木2008, 伏木2009）。

2020年度入学生が2年次生として履修する2021年度は、臨床経験活動の実習先を附属長野小学校・附属長野中学校・附属特別支援学校とすることとなった。学生に配布される開設授業科目一覧に掲載されている教育臨床演習の目的と意義は表1のとおりである。

年間スケジュールは表2のとおりである。履修学生は、前期履修登録時期に「教育臨床演習」に履修登録する。臨床経験活動の配属校は、ガイダンス及び学部授業のなかで決定していく。学部および配属校における事前指導を経て、時期を教育実習期間の重ねた8月下旬から9月下旬の指定日および後期授業期間の指定日の水曜午後に、配属校における臨床経験活動に参加することとしていた。そして、臨床経験活動を終えた学生同士で行う後期の「リフレクション演習」は、「教育臨床演習」の授業枠にてコース別に実施する。

表1 「教育臨床演習」の目的と意義

教育臨床演習は、1年次に履修した「教職・カリキュラム論」における臨床的経験をさらに一歩進め、学校教育への理解を一層深めるとともに、教育の具体的実践課題に気付き、その解決のための方途を考えるための経験を積むものである。その目的は「臨床の知」を学び合うことにあるが、教職・カリキュラム論での学びを土台として、“外側”から眺めるだけでは理解できない教師と子どもの日常的な関わりや子ども同士の人間関係、あるいは学校内外での教師の仕事の現実を、“現場”のなかで体験的に学ぶことを目的とした臨床実習と、それらの個々の体験の意味を共同で省察する演習を組み合わせた授業科目である。

地域社会を基盤とする教育現場の現実課題ないし実践的課題をリアルに把握し、生活指導や学習指導等の個別的観点をはじめ、広く教育現場と教育制度の問題状況を捉える視野をもち、子ども・教師・保護者等の多様な人間関係のなかで営まれている学校教育の実践に参画しながら、自分自身の課題に気づき、以後の自分の学生生活における努力目標や専門分野の研究課題を意識することがこの授業のねらいである。

表2 「教育臨床演習」の年間スケジュール（年度当初の予定）

回	日時	内容	場所
1	05月19日（水）4限	オリエンテーション	オンライン
2	05月26日（水）4限	1年次の振り返りと「教育臨床演習」の意義・目的	オンライン
3	06月02日（水）PM	事前実地指導	長野附属学校
4	06月23日（水）4限	『教育内容・方法論』にみる授業観察の方法	オンライン
5	08月04日（水）3限	『教育内容・方法論』にみる教材研究の方法	オンライン
6	10月06日（水）4限	『教育経営』にみる学級経営のあり方	オンライン
—	※ 夏季休業中を含む期間	臨床実習（教育実習Ⅱ等参観を含む）	長野附属学校
11	12月01日（水）4限	リフレクション演習（発表とディスカッション）	学部
12	12月08日（水） 3・4限	『教職実践演習』での模擬授業参加と目指す教師像	オンライン ／学部
13	12月22日（水） 3・4限	『教職実践演習』でのポスター発表参加と教職ポートフォリオづくり	オンライン ／学部
14	01月19日（水）4限	2年次の振り返りと3年次に向けた課題分析	オンライン

※第2回・第3回・第11回は日程変更。

表3 教育臨床演習履修上の留意事項

- (1) 配属校における教育活動への参加は、原則として、休業日（土・日・祝日、夏季・冬季・春季休業）及び学期中は講義の空き時間を利用すること（「教育臨床演習」を理由として他の講義等を欠席することは認められない）。
- (2) (財) 日本国際教育支援協会の学生教育研究災害傷害保険・同付帯賠償責任保険に加入すること。
- (3) 教育臨床演習を履修するにあたっての必要経費（交通費・保険料等）は学生の自己負担とする。
- (4) 臨床実習は、附属学校園をはじめ、多くの機関・関係者の協力のもとに成立している。子ども達の学校生活に直接に関わり、“現場”の日常に影響を与えることをしっかり理解し、教師スタッフの一員としての自覚と責任をもって臨むことが求められる。
- (5) 配属校の教職員や大学教員の指導に従わず、活動を継続することが困難であると判断された場合は、臨床実習を途中で中止させることがある。

なお、年度当初は表2のような年間スケジュールを計画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえて、第2回を5月26日から7月21日に変更し、授業内容も順に送ることとした。また、第3回（6月2日）に設定していた配属校に実際に赴いての事前実地指導も、附属長野中学校は7月28日の午後、附属長野小学校は8月6日の午前中に変更した。そして、第11回（12月1日）に設定していたリフレクション演習は、臨床経験活動が終了してからの実施とするために、1月12日（一部のコースは12月22日）に変更した。

臨床経験活動を行う学校は、第1回の授業時に決定した。コース別に人数設定を示した上で、附属長野小学校約120名（全12学級に、各学級10名程度が所属）、附属長野中学校約100名（全15学級に、各学級7名程度が所属）、特別支援学校約20名（原則として特別支援教育コース生が所属）の所属学校・所属学級を決定した。

成績評価は、評点を伴わない合否判定としている。評価観点は、(1) 臨床経験活動への参加、(2) 教職ポートフォリオ・スタンダード12観点)に基づくレポート作成・自己課題の明確化、という2つの観点を設定している。

また、保険加入や経費負担に関する留意事項として、表3の5項目を示している。

3. 附属長野中学校における臨床経験活動の概要

本稿では、3校ある長野附属学校のうち附属長野中学校における臨床経験活動の概要について詳述する。

附属長野中学校における教育臨床演習の日程と内容は表4のとおりである。

表4 教育臨床演習の日程と内容（2021年度・附属長野中学校）

月日	グループ	午前	午後前半	午後後半
07月28日(水)	全員			事前実地指導
09月02日(水)～ 09月07日(火)	A【集中】 —4日間	教育実習Ⅱ(4 年次A)参観		
09月10日(金)～ 09月15日(水)	B【集中】 —4日間	教育実習Ⅱ(4 年次B)参観		
10月06日(水)	A①		清明塾	環境整備作業
10月13日(水)	B①		清明塾	環境整備作業
10月20日(水)	A②		音楽集会	(環境整備作業)
11月10日(水)	B②		清明塾	(環境整備作業)
12月15日(水)	A③		清明塾	環境整備作業
12月22日(水)	B③		清明塾	環境整備作業

※9月の教育実習Ⅱ(4年次)参観は中止。



図1 入校前の検温の様子



図2 事前実地指導・全体会の様子

図1と図2は、7月28日(水)の事前実地指導の様子である。図1に示すように、入校前に非接触型体温計で検温してから、配属学級ごと受付を行い、資料を受け取る。入校後に、出勤簿に捺印またはサインすることと合わせて、非接触型体温計での検温結果を記入する。事前実地指導では、副校長からは教育臨床演習に臨む心構え、教頭からは附属長野中学校の概要説明、教育臨床演習担当教諭からは日課・教育臨床演習中の動きについて、服装・登下校について、持ち物・準備品について、それぞれ話を聞き、臨床経験活動の準備を行った。

年度当初の予定では、9月2日から9月15日にかけて、教育学部4年次生の教育実習Ⅱを参観する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえて、中止となった。そのため、2021年度の臨床経験活動は、10月から12月にかけての3回のみとなった。密な状況の回避のために、1学級をAとBの2グループに分かれて参加した。

4. 附属長野中学校における臨床経験活動の成果と課題

4.1 学生の取組みの取組

授業を参観する機会がなくなってしまい、臨床経験活動の回数が減ってしまった中、前向きに集会活動を参観したり、清明塾^{註1}での学習支援に取り組んだりする姿が見られた。図3と図4は、清明塾における学習支援に取り組む学生の様子である。清明塾での学習支援活動では、生徒が取り組んでいる学習について、分からないことがないか生徒に聞いたり、生徒の質問に丁寧に答えたりしながら、学習支援に取り組む学生が多く見られた。個別に学習支援をする中で、生徒が解けない問題について丁寧に教えている姿も見られた。一方で、配属学級の生徒と関わる時間を十分確保できなかったため、参観する視点をもつことができずに、生徒の様子を参観する学生の姿も見られた。また、学習支援の際も生徒に積極的に関わることができずに、机間巡視に終始する学生の姿も見られた。新型コロナウイルス感染症の拡大状況による授業参観中止の影響が大きいのが、教育臨床演習の目的「教師と子どもの日常的な関わりや子ども同士の人間関係、あるいは学校内外での教師の仕事の現実を、“現場”のなかで体験的に学ぶ」ためには、参観時数を確保して、配属学級の生徒の様子を観察したり実態をつかんだりする必要があると感じた。



図3 清明塾での学習支援の様子



図4 個別に学習支援をする学生

放課後の環境整備作業では、校舎内の清掃や校庭の落ち葉集めなどに取り組んだ。初回の環境整備作業前には、担当教諭より学校における環境整備の必要性について話をした。環境整備作業では、積極的に取り組む学生が多く見られた。特に、回を重ねるにつれ、開始時刻前から作業に取り組んだり、終了時刻になっても区切りのよい所までと時間一杯作業に取り組んだりする学生が増えてきた。教育臨床演習のある日は、中学校で清掃を行わない日のため、学生の取組みによって、校舎内外の環境を整えることができた。翌日の朝の学活の際に、中学生に対しても前日の学生の環境整備作業について伝えるようにした。

4.2 中学校の受入れ体制

教育臨床演習担当教諭を中心に、教育実習担当の職員で、学生の受入れや指導にあたることができた。授業時間内に学生が来校することとなったが、入校前の検温、授業教室近くを通らない動線、下履きを持つての移動、控室（武道場や3階多目的室）の確保などによって、対応することができた。また、放課後の環境整備作業は、教育臨床演習担当教諭と特任教諭で対応した。臨床経験活動における学生の動きを固定化することで、少人数の職員で対応することができた。

図5は、各学級における初回の臨床経験活動の際の短学活時に、学級での学級配属学生の紹介を行った様子である。新型コロナウイルス感染症の拡大によって、配属学級の生徒と関わったり参観したりする機会は確保できなかったが、教育実習同様に、生徒と学生の出会いの場とすることができた。次年度も、学生と生徒との出会いの場を大切にするとともに、配属学級の生徒の様子を参観できる機会をできる限り確保していきたいと考える。



図5 学級での学生の紹介

4.3 次年度に向けての課題

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、年度当初計画していた授業参観を行うことができなかった。学生が臨床演習活動として、授業を参観する場をできる限り確保することで、学生が様々な教科の学習に取り組む生徒の姿から、生徒理解や学級経営について考えることができる場としたい。また、放課後などに、学級担任と懇談する時間を確保することで、担任としての視点を考えられる機会としたい。

短縮された中ではあったが、多くの学生が前向きに臨床演習活動に取り組んでいた。一方で、積極的に取り組むことのできなかった学生もいる。学生にとっては3年時の教育実習と同様の心構えで臨床演習活動に取り組んでほしいと考える。参観のみではあるが、中学生の前に立つことや学校現場に立つことの意味や心構えについて、学部の授業や事前指導の際に指導していきたい。

5. 2021年度の課題を踏まえた2022年度の実施計画

上述の課題を踏まえて、2022年度は、表5のような日程と内容で、附属長野中学校における臨床経験活動を実施中である。主な相違点は、次の3点である。

- ① 大学の夏季休業期間中に実施される教育実習参観を行うこと。
- ② 諸事情により上記①を参観できなかった学生を対象にC日程を設定したこと。
- ③ 大学の後期初回の参加時には、学級担任との懇談を設定していること。

表5 教育臨床演習の日程と内容（2022年度・附属長野中学校）

月日	グループ	午前	午後前半	午後後半
08月03日（水）	全員			事前実地指導
08月29日（月） ～09月01日（木）	A【集中】 4日間	教育実習Ⅰ（3 年次）参観		
09月13日（火） ～09月16日（金）	B【集中】 4日間	教育実習Ⅱ（3 年次）参観		
09月20日（月） ～09月21日（火）	C【集中】 2日間	教育実習Ⅱ（3 年次）参観		
10月12日（水）	A①		清明塾	学級担任との懇談
10月26日（水）	B①		副校長講話	学級担任との懇談
11月09日（水）	A②		清明塾	（環境整備作業等）
11月16日（水）	B②		清明塾	（環境整備作業等）
11月30日（水）	A③		清明塾	環境整備作業
12月21日（水）	B③		清明塾	環境整備作業



図5 教育実習の参観の様子



図6 教育実習生と共に参観する様子

2022年度は、教育実習も予定どおりに実施されており、図5および図6のように教育実習参観を実施している。先輩である教育実習生が授業をする姿を参観できることに加えて、図6のように教員授業を参観している教育実習生の姿を見ることで、授業参観の方法や参観記録票の記入方法を教育実習生から学ぶことが可能になっている。

6. おわりに

本実践は、コロナ禍のために2020年度は実施できなかった臨床経験活動を、2021年度は附属と学部とで連携しながら実施してきた。附属担当教員と学部担当教員が連絡を密に取り、必要な事前指導・事後指導を行った。

その結果、次の2点が明らかになった。

- コロナ禍であっても、附属学校と学部が密に連携することによって、臨床経験科目における臨床経験活動を実施可能だったこと。

○先輩の教育実習の様子を直接参観することで、授業参観の方法や参観記録票の記入方法などを実践的に学ぶことができたこと。

今後の課題としては、教育実習前に履修する臨床経験科目である「教育臨床演習」（2年次）と「教職・カリキュラム論」（1年次）の充実方策を検討・実施することにより、教職志望学生の実践的指導力向上にさらに寄与できる教員養成カリキュラムを構築していくことであろう。

註

1 「清明塾」とは、各教科（国語，社会，数学，理科，英語）の学習内容の定着を図るために、生徒が自ら学習内容や学習方法を選択して学習に取り組む全校統一の時間のことである。次の3つのコースを設定していて、各生徒が選択する。

○「基礎基本コース」：基礎的・基本的内容の習得を目的とし、各教科とする生徒向け基礎的・基本的内容（前の学年の内容を含む）が確実に習得できるように、各教科で授業を行ったり、問題の解き方の解説を行ったりする。

○「共に学ぶコース」：授業で学習した内容を定着させたり、発展的な内容に取り組んだりすることを目的とする生徒向け。生徒同士で教え合いながら学んでいく。

○「一人で学ぶコース」：授業で学習した内容を確実に定着させたり、発展的な内容に取り組んだりすることを目的とする生徒向け。わからないところがあれば、教師に質問する。

なお、学生の関わり方としては、「共に学ぶコース」では、学生も学び合いの輪に積極的に入って行くようにしており、また、「一人で学ぶコース」では、わからないところを教師に加えて学生にも質問するようにしている。

付記

本研究は、次の口頭発表等を加筆修正したものである。

- ・谷塚光典，森下孟，2022，新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえた教員養成初期段階の臨床経験活動の工夫，日本教育工学会 2022 年春季全国大会（第 40 回大会）講演論文集，pp.327-328
- ・尾臺美彰，谷塚光典，森下孟，2022，新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた臨床経験科目「教育臨床演習」実施に向けた学部と附属学校園の連携，令和 4 年度日本教育大学協会研究集会発表概要集，pp.74-75

文献

伏木久始，2008，地域の公立学校での「体験」と大学での「省察」を連動させた「教育臨床演習」のカリキュラム開発とその実践，信州大学教育学部紀要，121，pp.61-71

伏木久始，2009，地域の学校での職場体験と大学での演習を連携させる授業の教育効果，

- 日本教師教育学会年報, 18, pp.108-117
- 文部科学省, 2020a, 令和2年度における教育実習の実施期間の弾力化について (通知)
https://www.mext.go.jp/content/20200501-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf
(accessed 2022.9.25)
- 文部科学省, 2020b, 教育職員免許法施行規則等の一部を改正する省令の施行について (通知), https://www.mext.go.jp/content/20200811-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf
(accessed 2022.9.25)
- 信州大学比較教育学研究室, 2020, バーチャル教育実習を始めました, http://shinshuedu.blogspot.com/2020/09/blog-post_10.html (accessed 2022.9.25)

(2022年9月26日 受付)